

演題	おかわり！もっと食べたい！
副題	自分で選び楽しく食欲アップ

フリガナ	ケアホームハナビシ
施設名	ケアホーム花菱
フリガナ	カンリエイヨウシ テヅカ アヤカ
発表者(職名・氏名)	管理栄養士 手塚彩夏
フリガナ	エイヨウシ フカマツマユカ
共同研究者	栄養士 深松まゆか

【はじめに】

コロナウイルス感染の影響で制限されることが増えた。感染症対策を行いながらも施設での生活を楽しんでいただけるように、当施設では1年を通して各部署が企画担当となりイベントを行っている。

イベント実施にて楽しみが増え活気にも繋がるが、日常的な楽しみとしては「食事」があげられると思う。実際に利用者様からも「食事が唯一の楽しみだからね。」という声がよく聞かれる。しかし、中には食事が進まない方もいる。毎日提供されたものを食べているのが現状で、食を通しての刺激が少ない。多くの利用者様に食へ興味を持ってもらい食欲アップに繋がる方法を考え、七夕デザートバイキングを実施した。

【目的】

- ① 視覚で楽しんでもらい、食に興味を持ってもらう。
- ② 自分で食べたい物を選ぶ事で食欲アップに繋げる。
- ③ 食を通して職員と利用者様が関わる機会を増やす。

【方法】

- ① 提供内容検討（栄養士で試食等実施）
⇒季節も感じられて視覚でも楽しめる物を検討
- ② 他部署への実施案説明と協力依頼（会議にて説明）
- ③ 利用者様と七夕飾り作成
- ④ 感染症対策も行ったバイキング形式でのおやつ提供
リハ職員による七夕クイズ・歌の実施
(利用者様が動かなくても良いように動く机を使用)
(飲み物は事前に飲みたい物を聞いて準備)
- ⑤ 評価シートによる反省

【結果】

- ・提供時点で、「こんなにすごいね。」「豪華だね。」「きれいだね。」「興味を示す方がたくさんいた。」
- ・飾り付けや音楽を流す事で活気のある環境作りができた。
- ・動く机を使用することで、利用者様の動作の負担を減らしながらも近くで選んでもらうことができた。
- ・バイキング形式にすることで自然と職員と利用者様が食を通して関わる時間ができた。
- ・飲み物は1人1人の希望の物を提供したことで喜ばれていた。
- ・普段食事が進まない方も含め、「おかわり！」「もっと食べたい！」とおかわりされる方が沢山いた。
- ・普段の食事では見られない楽しそうな表情が見られた。
- ・普段あまり意思表示ができない方も、生き生きとした様子が見られた。
- ・「おいしいね。」「これが美味しかったよ。」「もっと食べろし。」など利用者様同士の会話も弾んでいた。
- ・イベント終了時は、「楽しかったよ。」「美味しかったです。」「またやってね。」と笑顔で居室へ戻られる方の姿が多く見られた。

【まとめ】

今回のバイキングを実施し、普段とは違う物の提供や提供方法を取り入れることによって、利用者様の食への興味を引出すことができた。視覚で楽しめる物は見ただけで興味を示し「食べてみたい！」と思わせることができ、自分で好きな物を選ぶ事で選択する楽しさと食欲アップに繋がることが分かった。コスト面や人員確保の面で難しい場面もあるとは思いますが、日常的に取り入れられるように工夫を重ね「楽しく食欲アップ」を実施していきたいと思う。